

世のため、人のため

片桐英数塾通信

河合サテライトネットワーク校
全統模試実施校
坂本教室 OFFICE
TEL 24-1337
FAX 82-6185
天神教室
TEL 23-1899
E-mail
info@katagirijuku.com

こわいのは失敗することではなく、
失敗を恐れて何もしないことだ。

四〇年周期で「盛」と「衰」が入れ替わる？ あ、本当だ…。

実は、私、まだステイブ・ジョブズに始まったブックサーフィンを続けております。つまり、まだ本が増え続けていくということなんです。どうにも止まりません…。

冒頭の「四〇年周期で「盛」と「衰」が入れ替わる」というのは、京セラ名誉会長である稲盛和夫氏の著書に書かれてあったものです。何がどうなっているのか、稲盛氏の本にたどり着いたのは、もう私にすらわからなくなっております。ま、それは良いとして、この本には日本のもので「盛」と「衰」の転機というものは、一八六五年頃の徳川幕府が衰え、明治維新となりゆく頃に始まり、富国強兵、とりわけ強兵を目指したピークが日露戦争の勝利である一九〇五年のポーツマス条約。これまでの期間は「盛」です。しかし強兵に力を入れ過ぎたために悲惨な結果となった一九四五五年の終戦、「これまでは「衰」。そして今度は富国を目指す、輸出で経済大国の道を突き進み、全世界から一人勝ちだと非難されるまでに至った一九八五年のプラザ合意、これまでは「盛」。バブルの時は

ありました。それが以降、今に至るまで「衰」というように、見事なまでに四〇年周期で続いています。その転機を見てみると、どうやら、過去の成功から離れられず、方針の転換を拒み、旧来通りを行こうとし泥沼化していくのは、昔ながらのパターンなのかもしれません。

そして、ふと気になるのが、一九八五年に四〇年を足すと二〇二五年です。あら？ 割ともうすぐです。四〇年ごとに「盛」と「衰」を繰り返しているのだから、次は「盛」の番です。よしよし！

…いや…。たぶんこのままではそうはならないと思います。あまりに問題が多すぎます。この本では、二〇二五年には国の借金も一五〇〇兆円、すなわち国民の金融資産残高に追いついてしまうということなんです。こうなると、それ以上の借金は外国の投資家にもお願いしなくてはいいけなくなるでしょうし、「こちらから頭を下げれば金利も上がるのではありません。それなら、稼げばいいじゃないか」となるのです。世界でも類を見ない速度の少子高齢化で労働者人口も、さらに総人口も減少しま

す。どうにも不利です。過去の転機の中で、最悪だったのは終戦の一九四五年度です。その最悪の状態から一九八五年の経済のピークまでの「盛」の期間から何かを学べないだろうか…、と思い、戦後に企業を興し、そこから世界に切り込んで行ったソニーとホンダの創業者の本を読んできました。

ソニーは井深大氏と盛田昭夫氏により創業され、ホンダは本田宗一郎氏により創業されています。井深氏と本田氏は友人ということもあり、考え方がよく似ています。また「ステイブ・ジョブズはソニーを尊敬し、ビジネスマンとしては盛田昭夫氏に憧れていたのですが、開発の神髄は井深大の発想そのものの「自由闊達にして愉快なる」より「このこと、これまた考え方が似ています」ということは、共通項として抜き取れる要素を並べると、成功のヒントが得られるのではないかと考え、またまた読書を進めたのであります。

読書を進めていきますと、困ったことに、驚くほど一致する点があります。とても一致する点を書き出そうにも、この紙面内にはまとめられませんが、そこで、勝手ながら私が見える手法であろうと、取り入れられるものは何でも取り入れる」と井

深氏が言うように、「こういうものが作りたい」という思い、ただそれだけです。そして、その思いの中心にあるのは「多くの人に喜ばれるものを、多くの人を幸せにするものを」という、自分のためではなく、「世のため、人のためになるもの」、つまり、利他の心です。そのような思いで作った製品だからこそ、世界中の人から愛されたのだと思います。

それと、前出の皆さんが口を揃えるように言っていることがあります。ものづくりに命を懸けてこられた皆さんは、株とか土地とか、形を変えないもので儲けようとする風潮を強く懸念されています。井深氏は本の中で「原価率何パーセントの苦勞なんて、いやになって当然でしょう。だから私や本田さんのように、ものをつくることに長年たずさわってきた者にとっては、あのバブルの時代とは、あほらしいひとことに尽きます」と書いています。その悔しさが伝わってきます。

私が一人秘かに思っていることですが、「儲ける」という言葉が随分と軽い世の中になってしまった気がします。私もこの言葉を誤解していたのですが、先達の言う「儲ける」はお金をたたく増やすことだけを意味してはいけません。「世のため、人のため」多くの人に喜ばれるものを、多くの人を幸せにするものをがむしゃらになんて作り出し、そのわずかな数パーセントの利益率を「儲ける」と表現しているのだと、今更ながらに理解いたしました。

またも中高生にわかりにくいものを書いてしまったと反省しつつも、先輩がどのような気持ちを持ち、経済を引っ張ってきたのか、その哲学的な部分をまづ知っておかなければならないように思い、つい書いてしまった次第でございます。

哲学に支えられた熱い思い、力強い行動、そして失敗を恐れず越えるためのキーワードに思えてなりません。

小学6年生特別講座

君たちの可能性は無限大！！『わからないことがわかった！』『できなかったことができるようになった』それが少しずつ積み重なって、大きな夢が実現できます。『わかった』と『できた』をたくさん経験すれば勉強が楽しくなってきます。その学習習慣を今から一緒に身につけていきましょう！！

11月から時間を変更致します！
毎週土曜日（月4回）14:00～ お問い合わせは坂本教室まで！

片桐英数塾からのお知らせ

坂本教室の11月のお休みは、
3日(日)、10日(日)、17日(日)、24日(日)です。
お迎え時の車の混雑について、保護者の皆様にご理解とご協力をお願いします。お迎えの際には、駐車場内での安全走行、エンジン停止にご協力いただくとともに、ご近所出入口などでの路上待機、他の駐車場の無断使用などはご遠慮いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。
HPアドレス <http://www.katagirijuku.com> メールアドレス katagirijuku@docomo.ne.jp

センター試験まであと80日！

高校受験まであと4か月！

映像授業で効率よく志望校に近づこう

～受講生の声～

- ・数学と生物の「センター試験対策」を受講していました。ポイントをおさえて学ぶことができ、センター過去問の演習もできたのでよかったです。説明も丁寧で非常に分かりやすかったです。センター前には、わからない部分を繰り返し復習しました。(M.Aさん)
- ・グラフィックスなどを用いて説明してくれるのでとても理解しやすいです。個性的で面白い先生が多いので、ちょっとした気分転換にもなりました。(K.Tくん)
- ・センター試験対策地理Bの瀬川先生には何度も励ましてもらいました。受験勉強中、気持ちが落ち込んだ時には、瀬川先生の言葉を聞くためだけに映像ブースに行くこともありました。(K.Yくん)
- ・好きな時間に自分のペースで見ることができるので、非常に役立ちました。「ハイレベル数学Ⅱ・B」では、いくつかの解答パターンを教えてくれるので、二次問題を解いている時に、「これ映像授業で解いた問題だ」と気付くことがあって、何度も助けられました。(H.Iくん)

